

2020年7月7日

ファスニングジャーナル(1面)に掲載されました

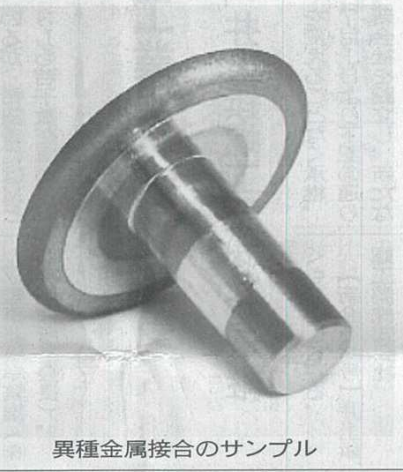
型技術論文賞

日東精工のAKROSE

日東精工(株)(材木正己社長)では、型技術協会が主催する「第30回型技術協会賞」の受賞者に決定された。今回は、各賞合わせて計六件の受賞がみられている。

型技術協会は、金型技術に携わる「産」と「学」の「情報の発信・共有」「技術者の交流の場」の提供を目的に設立。大手自動車メーカーをはじめ約一三〇社が加盟。1991年から、功績賞・技術賞・型技術論文賞、また1996年より型技術者会議及び型技術ワークショップの発表を通じて総合的に優秀な講演者等を顕彰する奨励賞を設置。特に優れた貢献度の高い型に関する技術等に対して毎年顕彰をおこなっている。

日東精工は、同協会の「型技術論文賞」においてファスナー事業部の手島政和・山本浩一両氏の作成論文で受賞。そのテーマは冷間圧造技術を活かした異種金属接合法



異種金属接合のサンプル

「AKROSE」の開発。同協会発行機関誌「型技術」に掲載された優れた論文の中でも、特に有用性・発展性・開示性・革新性などの点で評価の高いものに贈られる賞に位置付けられている。

同社では、AKROSE Eが業界から金型技術の発展に貢献、期待されている証として受け止め、一層の技術向上等によって部品の大量生産ニーズへの対応により、需要拡大に展開を図っていく方向にある。

来にはない、画期的な異種金属接合で軽量化、省力化、コスト削減など多くの面で優位性を発揮できる新技術・新工法。

主な用途は、EV自動車用バッテリー、家電品用コンプレッサ、ヒューズ、コネクタ類など。複数・多様な材料の接合を実現、複雑な接合形状を表現、接合品の密着性を向上、接合部の回り止め強度の向上、環境負荷を低減。

【AKROSE】
工業用ファスナーで培ってきた冷間圧造技術の知見を活かして開発。従